

青少年の規範意識の獲得と地域参加活動に関する調査研究

古市 勝也
(九州女子短期大学)
中川 聡
(攻玉社高等学校)

【要旨】

本調査研究は、学校・家庭・地域における場面・人・行事に関して、小学5・6年生とその保護者、地域の高齢者、青少年育成指導者を対象としてアンケート調査を実施し、規範獲得の実態解明を試みたものである。

本論で扱うのは、第22回大会での発表に準じ、第一次集計段階の結果である。

学校では、道德、学級活動、生活指導、学年・全校集会、修学旅行、入学式などで、担任の先生、同じ学年の友だち、上の学年の先輩、クラブの先生などから規範意識を獲得することが多い。地域では、子ども会等の青少年団体活動等において、それらの活動、公民館や地域の行事などを通して、青少年団体の指導者、地域のおじさん・おばさんなどから規範意識を獲得することが多い。家庭では、家族の団らん、食事時間、家の手伝いなどの場面で、正月、盆、墓参り、敬老の日などの行事の際に、父、母、兄・姉、祖父、祖母などから規範意識を獲得することが多い。

1. 研究の概要

最近、17歳の少年による凶悪犯罪に代表されるように、青少年の反社会的な問題行動等の要因の一つには、青少年の規範意識が未発達であり未成熟であることが考えられる。そこで、青少年の規範意識が、家庭や地域で、何から、どのようにして獲得されるのかを解明することが必要である。本調査研究では、アンケート調査の結果をもとに、地域でのヒト（大人・先輩・友人など）やモノ（行事・祭り・通過儀礼など）、家庭でのヒト（親・兄弟姉妹・祖父母など）やモノ（行事・祭事・通過儀礼など）を手がかりとして、規範獲得の実態解明を試みたものである。

ただ、規範意識というのは曖昧さを含む概念であり、ひとりひとりイメージすることが異なることばである。そこでわれわれのアンケート調査では「規範」や「規範意識」の定義を提示するのではなく、アンケート用紙の冒頭でアンケートへの回答を兼ね、

- Q 1. あなたは友だちが悪いことをしていたら止めさせますか？
- Q 2. あなたはバスや電車で席をゆずりますか？
- Q 3. あなたは弱いものいじめをしている人を注意したりしますか？
- Q 4. あなたは喧嘩をやめさせたりしますか？
- Q 5. あなたは、公園や道路などに落ちているゴミを拾いますか？

といった社会のルールや道徳を例示し、このアンケートではこれらの道徳的内容を含む意

味で規範や規範意識ということばを用いていることがわかるように調査票を設計した。

また、調査票の設計に際しては、小学校高学年の児童でも回答しやすいように配慮したのはもちろんのこと、「通学合宿」が関わりをもつ内容では必ず通学合宿の項目を設けるとともに、地域行事に関する質問ではとくに慎重に検討を重ねた。このようにして本調査研究では、地域行事への関わり、地域行事や通学合宿への参加という視点などからも、規範意識獲得の程度がわかるように配慮した。

なお、本研究は、財団法人マツダ財団の研究助成(青少年健全育成関係)を受けて行ったものである。また、本稿の内容は、第22回大会での発表に基づく、アンケート調査の第一次集計結果による発表で、中間的段階の発表である。主に単純集計の結果を用いているので、規範意識獲得の差や地域行事などとの関連にはまだ十分踏み込めていない。これらの分析と自由記入の分析が今後の課題として残っている。

2. アンケート調査の概要

- (1) 調査時期：2001(平成13)年5月10日～6月10日
- (2) 調査地域：福岡県内で「通学合宿」を実施している5町の小学校区5地区
(稲築町、岡垣町、築城町、庄内町、久山町)
- (3) 調査対象者：小学校5・6年生およびその保護者、高齢者、青少年育成指導者
なお、小学生には「子ども用調査」を、保護者、高齢者、青少年育成指導者には「成人用調査」の2種類の調査をそれぞれ実施
- (4) 調査方法：
＜小学生とその保護者＞ まず、各町教育委員会に依頼し教育委員会に郵送し、さらに教育委員会経由で、各学校で、クラスごとに配付調査
＜高齢者及び青少年育成者＞ 各教育委員会で団体に配付し調査
- (5) 回収数など：第1表の通り

第1表 各調査の配布数・回収数・回収率

子 ども 用 調 査				成 人 用 調 査			
	配布数	回収数	回収率		配布数	回収数	回収率
小学5年		311		保護者	803	581	72.4%
小学6年		444		高齢者	250	171	68.4%
不 明		10		育成者	250	178	71.2%
小 計	803	765	95.3%	小 計	1303	930	71.4%

- (6) 調査内容：①子ども用調査

規範的行動、規範意識の学習時期、通学合宿への参加経験、規範意識を学んだ機会、地域行事への参加頻度、家庭内での約束事の有無、地域の通過儀礼の有無、性別など

- ②成人用調査

規範的行動、規範意識の学習時期、規範意識を学んだ機会、地域行事への参加頻度、家庭内での約束事の有無、地域の通過儀礼の有無、成人式の要・不要、子どもが規範意識を学ぶ機会、性別、年代など

3. 調査結果の概要

(1) 単純集計の結果から

1) 子どもの規範意識、規範的行動

子どもたちの規範意識・行動は、第2表～第6表の通りで、第6表の「ゴミを拾う」を除けば、「必ずする」と「ときどきする」を合わせると7～8割くらいの割合になっている。

さらに、「どちらでもない」「ほとんどしない」「絶対しない」も合わせてみると、今日の普通の小学5・6年生の姿を現していると言えるだろう。

第2表 Q1. あなたは友だちが悪いことをしていたら止めさせますか？

1、必ずする	143(18.7%)
2、ときどきする	469(61.3%)
3、どちらでもない	77(10.1%)
4、ほとんどしない	66(8.6%)
5、絶対しない	9(1.2%)
無回答	1(0.1%)

第3表 Q2. あなたはバスや電車で席をゆずりますか？

1、必ずする	157(20.5%)
2、ときどきする	372(48.6%)
3、どちらでもない	118(15.4%)
4、ほとんどしない	88(11.5%)
5、絶対しない	29(3.8%)
無回答	1(0.1%)

第4表 Q3. あなたは弱いものいじめをしている人を注意したりしますか？

1、必ずする	168(22.0%)
2、ときどきする	356(46.5%)
3、どちらでもない	129(16.9%)
4、ほとんどしない	98(12.8%)
5、絶対しない	14(1.8%)
無回答	0(0.0%)

第5表 Q4. あなたは喧嘩をやめさせたりしますか？

1、必ずする	180(23.5%)
2、ときどきする	359(46.9%)
3、どちらでもない	111(14.5%)
4、ほとんどしない	92(12.0%)
5、絶対しない	23(3.0%)
無回答	0(0.0%)

第6表 Q5. あなたは、公園や道路などに落ちているゴミを拾いますか？

1、必ずする	31(4.1%)
2、ときどきする	287(37.5%)
3、どちらでもない	100(13.1%)
4、ほとんどしない	238(31.1%)
5、絶対しない	108(14.1%)
無回答	1(0.1%)

2) 子どもたちの規範意識の獲得

ここでは、子どもたちが規範意識を獲得している状況（場面、人、行事）について見てみたい。

ア 規範意識獲得の場面

家庭においては、以下の場面が規範意識獲得の主なものになっている。

① 家族の団らん	52.9%	③ 手伝いをしながら	30.5%
② 食事をしながら	49.2%	④ 家庭行事	10.5%

学校では、

① 道徳の授業で	76.6%	⑤ 学校行事	17.4%
② 道徳以外の授業中	30.3%	⑥ 給食などの食事時間	12.0%
③ 学級活動・クラスタイム	19.6%	⑦ 奉仕活動、ボランティア活動	11.6%
④ 生活指導	17.8%		

となっており、道徳の授業の比重がきわめて大きい。

地域では、

① 塾や習い事	18.8%	④ スポーツクラブなど	16.5%
② 子ども会などの活動	17.3%	⑤ 通学合宿	15.4%
③ 地域の行事	16.9%	⑥ 買い物をしながら	12.5%

となっており、今日の子どもたちは地域との関わりが希薄になっている割には、地域において子どもたちが規範意識を獲得する場面は、まだまだ残っているようだ。

イ 誰から規範意識を獲得しているか

家庭では、

① 母	83.0%	④ 祖父	25.6%
② 父	66.5%	⑤ 兄・姉	19.6%
③ 祖母	39.7%		

となっており、家族の（とりわけ年上の）重要性がわかる結果になっている。

学校では、

① 担任の先生	88.0%	③ 上の学年の先輩	13.6%
② 同じ学年の友だち	20.1%	④ クラブ・部活動の先生	12.2%

となっており、やはり小学生では担任の先生の影響が大きいのである。

地域では、

① 子ども会の指導者	24.2%	④ スポーツクラブ等の指導者	15.3%
② おじさん・おばさん	19.6%	⑤ 通学合宿の指導者	13.5%
③ お年寄り	15.4%	⑥ 地域の友だち	11.8%

となっており、地域のおじさん・おばさん、お年寄りの役割が再認識できる。さらに、場面・人の両面から言っても地域での通学合宿およびその指導者の役割も見逃せない。

ウ 規範意識を獲得している行事

家庭の行事では、

① お正月	42.9%	⑥ 年末の年越し行事	16.7%
② お盆	29.0%	⑦ 敬老の日	15.9%
③ 家族の誕生日	23.5%	⑧ 父の日	14.9%
④ 母の日	20.1%	⑨ 七五三	10.7%
⑤ 墓参り	19.6%	⑩ 節分	10.3%

となっており、各家庭ごとに家庭での行事や家族の節目には相応の意義があるようだ。

学校行事では、

① 学年集会、全校集会	34.2%	⑥ 始業式	25.2%
② 遠足	33.3%	⑦ 終業式	24.4%
③ 修学旅行	30.2%	⑧ 宿泊研修	16.9%
④ 入学式	29.7%	⑨ キャンプ	13.6%

- ⑤ スポーツ行事 25.9% ⑩ 卒業式 11.5%

となっており、遠足などの学校から離れる行事と入学式などの節目となる行事の二種類が、規範意識獲得の機会となっている。

地域の行事では、

- ① 子ども会 33.1% ③ 地域運動会 11.0%
② 公民館の行事 13.3%

となっている。

3) 成人の規範意識獲得の時期

「規範意識を学んだのはいつ頃か」の回答が 第7表で、小学校時代では過半数を超え、それに続いて中学校時代となっている。

第7表 Q 6. Q 1～Q 5のような規範意識を学んだのは、いつ頃ですか？

1、学んでいない	47(5.1%)
2、幼稚園・保育園の入園以前	146(15.7%)
3、幼稚園・保育園の頃	204(21.9%)
4、小学校低学年(1～3年)	519(55.8%)
5、小学校高学年(4～6年)	493(53.0%)
6、中学校時代	330(35.5%)
7、高校時代	195(21.0%)
8、専門学校・短大・大学時代	94(10.1%)
9、就職してから	213(22.9%)
10、その他	99(10.6%)
無回答	16(1.7%)

4) 成人の規範意識の獲得

ここでは、成人用調査において成人たちが規範意識を獲得したと回答している内容について見てみたい。

ア 規範意識獲得の場面

家庭においては、以下の場面が規範意識獲得の主なものになっている。

- ① 家族の団らん 64.0% ③ 手伝いをしながら 45.8%
② 食事をしながら 50.2% ④ 家庭行事 13.9%

学校では、

- ① 道徳の授業で 71.3% ⑥ 道徳以外の授業中 21.7%
② 学級活動・クラスタイム 31.1% ⑦ 奉仕活動、ボランティア活動 18.1%
③ 生活指導 30.8% ⑧ 給食などの食事時間 14.6%
④ クラブ活動や部活動 23.8% ⑨ 通学時 14.1%
⑤ 学校行事 23.2% ⑩ 生徒会活動 10.6%

となっており、道徳の授業の比重がきわめて大きい。

地域では、

- ① 地域の行事 43.8% ⑤ 買い物をしながら 12.6%

- ② 子ども会などの活動 23.4%
- ③ 奉仕・ボランティア活動 16.1%
- ④ 寺・神社・教会など 14.5%

- ⑥ 公民館・社教センターなど 11.6%
- ⑦ 青年団活動 11.1%
- ⑧ 塾や習い事 10.5%

となっている。

職場では、

- ① 仕事を通じて 66.1%
- ② 職場での社員研修など 29.4%

- ③ 学生時代のアルバイト 12.7%

となっている。

イ 誰から規範意識を獲得しているか

家庭では、

- ① 母 81.4%
- ② 父 68.0%
- ③ 祖母 37.3%

- ④ 兄・姉 25.9%
- ⑤ 祖父 23.3%

となっている。

ここで興味深いのは、右の第8表のように、小学生の調査結果と成人の調査結果が、「兄・姉」を除いて、非常によく似た割合になっていることである。今日の子ども世代は、少子化により兄弟の数も減り、兄・姉から規範意識を学ぶ機会が少なくなっているのも当然だが、この結果からは、年代・世代が異なっても家族の役割は変わっていないと言えないだろうか。

第8表 子どもと成人の類似

	子ども	成人
母	83.0%	81.4%
父	66.5%	68.0%
祖母	39.7%	37.3%
祖父	25.6%	23.3%
兄・姉	19.6%	25.9%

学校では、

- ① 担任の先生 79.9%
- ② 上の学年の先輩 29.6%
- ③ 同じ学年の友だち 28.1%

- ④ クラブ・部活動の先輩 27.4%
- ⑤ クラブ・部活動の先生 30.4%
- ⑥ クラブ・部活動の指導者 13.5%

となっており、やはり成人でも担任の先生からの影響が大きかったのである。

地域では、

- ① おじさん・おばさん 43.0%
- ② お年寄り 38.4%
- ③ 子ども会の指導者 28.0%

- ④ 地域の先輩 26.9%
- ⑤ 地域の友だち 22.3%

となっており、成人では地域のおじさん・おばさんから学んだとする回答が最も多くなっている。それに次いで、お年寄りという回答も、子ども用調査の回答の2倍を越えて多くなっている。

ウ 規範意識を獲得している行事

家庭の行事では、

- ① お正月 47.5%
- ② お盆 43.3%
- ③ 墓参り 41.4%
- ④ 年末の年越し行事 36.0%

- ⑧ 父の日 19.9%
- ⑨ 節分 15.3%
- ⑩ 端午の節句 15.2%
- ⑪ ひな祭り 14.8%

⑤ 敬老の日	29.7%	⑫ 七夕	13.4%
⑥ 家族の誕生日	22.6%	⑬ 七五三	12.5%
⑦ 母の日	22.4%	⑭ 春・秋の七草	11.0%

となっており、成人では子どもの調査結果と比較して、「お盆」「墓参り」「年越し行事」「敬老の日」の回答が多くなっている。また、これら以外にも、⑨～⑭のような日本の伝統行事を機会としても規範意識を学んでいる。

学校行事では、

① 学年集会、全校集会	45.7%	⑦ 宿泊研修	26.8%
② 修学旅行	37.5%	⑧ 終業式	26.2%
③ 入学式	34.5%	⑨ 遠足	26.0%
④ スポーツ行事	33.5%	⑩ 奉仕・ボランティア活動	24.5%
⑤ 卒業式	31.5%	⑪ 文化祭等の文化的行事	23.3%
⑥ 始業式	27.5%	⑫ キャンプ	21.9%

となっており、成人の場合には、学校時代に様々な行事を通じて規範意識を学んでいることがわかる。

地域の行事では、

① 子ども会	38.5%	⑥ 夏祭り	14.2%
② 奉仕・ボランティア活動	23.2%	⑦ 講	14.2%
③ 公民館の行事	22.9%	⑧ 敬老の日	13.2%
④ 地域運動会	21.1%	⑨ 地域のキャンプ	10.8%
⑤ 成人の日	17.3%		

となっている。割合は低く1割を切っているが、上記の行事に次いで、「鬼火たき」が9.1%、「青年団の行事」が7.7%、「伝統芸能」が7.4%となっている。

5) 成人の「子どもの規範意識獲得」への考え

続いてここでは、成人用調査において成人たちが、子どもはどのようにして規範意識を学ばよいかを尋ねた結果を見てみたい。

ア 規範意識獲得の場面

家庭では、

① 家族の団らん	85.4%	③ 食事をしながら	65.1%
② 手伝いをしながら	73.1%	④ 家庭行事	24.5%

学校では、

① 道徳の授業で	72.0%	⑤ 学校行事	25.3%
② 学級活動・クラスタイム	40.2%	⑥ クラブ活動や部活動	21.6%
③ 奉仕活動・ボランティア活動	33.7%	⑦ 道徳以外の授業中	15.9%
④ 生活指導	31.2%	⑧ 給食などの食事時間	12.8%

となっており、道徳の授業の比重がきわめて大きい。

地域では、

① 地域の行事	63.1%	⑤ スポーツクラブなど	21.2%
② 子ども会などの活動	40.5%	⑥ 公民館・社教センターなど	16.6%
③ 奉仕・ボランティア活動	39.5%	⑦ 買い物しながら	15.2%

④ 通学合宿 22.4%

となっている。

イ 誰から規範意識を学べばいいか

家庭では、

① 父	89.2%	④ 祖母	26.7%
① 母	89.2%	⑤ 祖父	22.5%
③ 兄・姉	31.3%		

となっている。

学校では、

① 担任の先生	87.0%	④ 同じ学年の友だち	30.3%
② クラブ・部活動の先生	45.8%	⑤ クラブ・部活動の指導者	28.5%
③ 上の学年の先輩	39.5%	⑥ クラブ・部活動の先輩	26.3%

となっており、担任の先生やクラブ・部活動の先生というように、学校の先生への期待が多くなっている。

地域では、

① おじさん・おばさん	59.4%	⑤ スポーツクラブ等の指導者	25.8%
② お年寄り	51.9%	⑥ 地域の友だち	18.4%
③ 子ども会の指導者	43.4%	⑦ 通学合宿の指導者	13.5%
④ 地域の先輩	34.5%		

となっており、地域のおじさん・おばさん・お年寄りへの期待も大きいですが、「通学合宿の指導者」という回答も一割を越えている。

職場では、

① 職場の仲間・同僚から	75.6%	③ 研修担当者から	39.8%
② 職場の上司から	74.7%	④ 得意先・取引先の方から	30.2%

となっている。

ウ 規範意識を学んでほしい行事

家庭の行事では、

① お正月	47.5%	⑤ 敬老の日	24.9%
② お盆	38.2%	⑥ 家族の誕生日	19.4%
③ 墓参り	33.8%	⑦ 母の日	12.4%
④ 年末の年越し行事	27.4%	⑧ 父の日	11.8%

となっている。ここで注目したいのが、日本の伝統的行事である。成人たちが規範意識を学んだ行事として下記の伝統的行事では、いずれも10%を越える成人が学んでいると回答していたが、子どもが学べばいい行事となると、どれもわずか1%前後となってしまう。もはや伝統的行事からは規範意識が学べなくなっていると解釈すればよいのか、あるいは伝統的行事そのものが成人たちの意識の中から無くなりつつあるのか、いずれにしても複雑な思いである。

端午の節句	1.8%	ひな祭り	1.2%	節分	0.5%
七五三	1.6%	七夕	0.9%	春・秋の七草	0.3%

学校行事では、

① 学年集会、全校集会	50.1%	⑥ 奉仕・ボランティア活動	17.2%
② 宿泊研修	35.5%	⑦ 始業式	14.5%
③ 修学旅行	33.4%	⑧ 遠足	14.1%
④ 入学式	32.3%	⑨ キャンプ	11.7%
⑤ 卒業式	19.6%	⑩ スポーツ行事	10.0%

となっている。

地域の行事では、

① 子ども会	44.7%	⑥ 講	14.9%
② 奉仕・ボランティア活動	44.2%	⑦ 敬老の日	11.2%
③ 公民館の行事	24.4%	⑧ 伝統芸能	10.8%
④ 成人の日	19.9%	⑨ 地域のキャンプ	10.0%
⑤ 地域運動会	19.5%		

となっている。

6) 成人式について

成人用調査では、成人式に関連して2つのことを尋ねている。

第9表は、「あなたの地域には、市区町村で行う成人式の他に、青少年が一人前の大人として認められる通過儀礼(節目となる行事や儀式、決まり事など)が、ありますか?」の回答である。今日、成人式以外で大人の仲間入りを認める通過儀礼はほとんど無いのが実状のようだ。

第10表は、「あなたは、市区町村で行う成人式は必要だと思いますか?」の回答である。成人式が必要であると考える成人は七割を越えてはいるが、その中でも「これまでとは違う成人式が必要だと思う」の回答の方が多くなっているのは、昨今の成人式会場での新成人たちの振る舞いを知ってのことと思われる。

第9表 通過儀礼の有無

1、ある	69(7.4%)
2、ない	543(58.4%)
3、よくわからない	282(30.3%)
無回答	36(3.9%)

第10表 成人式の要・不要

1、今後も必要だと思う	305(32.8%)
2、これまでとは違う成人式が必要	380(40.9%)
3、これからは必要ないと思う	124(13.3%)
4、よくわからない	86(9.2%)
5、その他	11(1.2%)
無回答	24(2.6%)

(2) クロス集計の結果より

この章では、子ども用調査のクロス集計の結果の一部を簡単にまとめておきたい。

1) 子どもの男女差

子ども用調査で男女により差が見られたのは、以下の項目である。

「バスや電車で席をゆずる」「弱いもののいじめをしている人を注意する」

「けんかをやめさせる」「落ちていたゴミを拾う」

これらは、必ずするとときどきするの回答のいずれもが、男子より女子の方が上回っている。

また、学校、家庭、地域、いずれの状況でも、男子より女子の方が、規範意識を学んだとする回答が多い傾向にある。

そして、家庭のきまりの有無についても、第11表のような差がみられた。

第11表 男女差による家庭のきまりの有無

	男	女
1、ある	23.8%	31.6%
2、ない	25.4%	18.6%

2) 規範的行動の頻度による差

ここでは、「あなたは、公園や道路などに落ちているゴミを拾いますか？」の回答で、「必ずする」と「ときどきする」をまとめ、「ほとんどしない」と「絶対しない」をまとめ、これによりできた二組でクロス集計を行った結果の一部を紹介する。これらの二組は、前者は規範的行動を比較的好く行う子どもたち、後者は規範的行動をあまり行わない子どもたちと考えてみた。

結果は容易に想像できることではあるが、

「友だちが悪いことをしていたらやめさせる」「バスや電車で席をゆずる」

「弱いものいじめをしている人を注意する」

においても、ゴミを拾うことが多い子どもたちの方が、必ず・ときどきするという回答が多くなっている。

これら二組の差は、規範意識を学んだとする時期にもあった。すなわち、前者と後者では、小学校入学後には差が見られないが、

幼稚園・保育園入園以前が15.1%と9.8% 幼稚園・保育園の時代が56.6%と45.7%
 というように、小学校入学以前の段階での規範意識の獲得の差がみられる。就学以前の教育やしつけなどの重要性を、あらためて確認する必要があるようだ。

また、規範的行動がより多い子どもたちは、以下の状況で「規範意識を学んだ」とする回答が、そうでない子どもたちの回答よりも多くなっている。

(家庭で)家族の団らんで

(")父・母・祖父・祖母から

(")お正月の行事で

(")母の日・父の日の行事で

(学校で)担任の先生から

(")クラブ・部活動の先生から

(")上の学年の先輩から

(")同じ学年の友だちから

(地域で)子ども会などで

(")地域の行事で

(")子ども会の指導者から

(")地域のおじさん・おばさんから

(家庭で)お盆の行事で

(")敬老の日の行事で

(")家族の誕生日の行事で

(学校で)始業式・終業式の行事で

(")学年集会、全校集会の行事で

(")修学旅行の行事で

(")キャンプの行事で

(地域で)地域の友だちから

(")地域運動会の行事で

(")子ども会の行事で

これらの結果を見ると、子どもたちが規範意識を獲得するには、どのような場面・状況

が有効であるか、どのような行事・活動が有効であるかが見えてくる。ただし、上記の状況は場面別に整理してあるだけで、並んでいる順に効果が高いということではない。

最後に、上記の他にも、地域の行事への参加頻度、家庭のきまりの有無、性別においても差が見られたことを付け加えておく。地域の行事への参加では、「ときどき参加している」の回答で前者が49.4%、後者が39.9%であった。「家庭のきまりがある」の回答では、前者が34.6%、後者が19.4%であった。性別では、男子では後者の方が過半数を超え、女子では前者の方が過半数を超えていた。

3) その他の要因による差

上記の他にも、以下の要因の差により規範的行動や規範意識の獲得において、前節までと同様の差が見られた。

「通学合宿の参加経験の有無」「地域行事への参加頻度」「家庭のきまりの有無」

以上のことを総合的に分析しても、子どもたちが規範意識を獲得するには、どのような場面・状況が有効であるか、あるいはどのような行事・活動が有効であるかが見えてくるであろう。

4) 通学合宿との関連

この節の最後に、通学合宿の参加経験の有無と地域での規範意識の獲得の関連を簡単に見ておきたい。

第12表 通学合宿への参加の有無

Q7. あなたは通学合宿(公民館や少年自然の家などで合宿しながら学校に通うこと)に参加したことがありますか？(注意:2回以上の参加は、宿泊日数の多いものを回答。)	
1、参加したことはない	519(67.8%)
2、1～2泊程度の通学合宿に参加したことがある	81(10.6%)
3、3～4泊程度の通学合宿に参加したことがある	43(5.6%)
4、5泊以上の通学合宿に参加したことがある	97(12.7%)
5、その他	16(2.1%)
無回答	9(1.2%)

通学合宿への参加実態は第12表のとおりで、参加経験者は決して多いとは言えない。しかしながら、地域で規範意識を学んでいないという回答は、第13表のように参加経験者の方が明らかに少ない。

第13表 通学合宿への参加の有無と地域での規範意識の獲得

	通学合宿への参加が	
	ある	ない
地域のいろいろな場面で規範意識を「学んでいない」	15.2%	35.1%
地域では誰からも規範意識を「学んでいない」	23.2%	40.1%
地域の行事では規範意識を「学んでいない」	30.4%	38.9%

(3) 子どもと保護者の意識の差

今回の調査結果からは、第14表や第15表のように、子どもとその保護者でも意識・認識において相違が見られた。第14表の「地域の行事にいつも参加している／参加させる」で

の差もさることながら、第15表で「家庭のきまりがある」との回答が、子どもで 27.3%、保護者で 46.8%となっている。この差は相当大きな意味を含んでいるように思える。

第14表 子どもと保護者の地域行事への参加意識・認識

Q10. あなたは地域(地元の町や村)の行事に、現在どれくらい参加していますか？			
Q11. 自分の子どもを地域の行事に参加させようと思いますか？			
Q11. 地域の行事に、どれくらい参加していますか？			
	子ども	保護者	保護者
1、いつも参加している/参加させる	220(28.8%)	201(34.6%)	108(18.6%)
2、ときどき参加している/参加させる	342(44.7%)	258(44.4%)	295(50.8%)
3、どちらともいえない	42(5.5%)	69(11.9%)	30(5.2%)
4、あまり参加していない/参加させない	74(9.7%)	22(3.8%)	101(17.4%)
5、参加していない/参加させない	68(8.9%)	11(1.9%)	42(7.2%)
6、その他	8(1.0%)	18(3.1%)	4(0.7%)

第15表 家庭のきまりの有無の子どもと保護者の差

Q12. あなたの家庭には、家庭のきまり・掟(家庭の憲法・家訓・憲章など)がありますか？		
	子ども	保護者
1、ある	209(27.3%)	272(46.8%)
2、ない	167(21.8%)	196(33.7%)
3、わからない	380(49.7%)	101(17.4%)
無回答	9(1.2%)	12(2.1%)

4. まとめ

これまでの、集計結果だけからでも、子どもの規範意識の獲得に関して、以下のような傾向が読みとれた。

家庭では、家族の団らん、食事時間、家事や家業の手伝いなどの場面で、正月、盆、墓参り、年越し行事、敬老の日などの家庭行事の際に、父、母、兄・姉、祖父、祖母などから規範意識を獲得することが多い。

学校では、道徳の授業、学級活動・クラスタイム、生活指導などの時間や、学年集会、全校集会、修学旅行、入学式などの行事の際に、担任の先生、同じ学年の友だち、上の学年の先輩、クラブ・部活動の先生などから規範意識を獲得することが多い。

地域では、地域行事、子ども会等の青少年団体活動などにおいて、子ども会活動、公民館の行事などを通して、青少年団体の指導者、地域のおじさん・おばさんなどから規範意識を獲得することが多い。

また、成人の調査結果から（保護者、高齢者、青少年育成指導者の三者の回答が総合されているにせよ）、子どもの規範意識の獲得に関しては、家庭、学校、地域において、家族、先生、指導者などとの人間関係において、多様な行事や活動を通じて、規範意識を学んでほしいと望んでいる。

今後、さらに多様な集計・分析を行えば、より詳細に規範意識獲得の実態を浮き彫りにできそうである。